



International Institute of Multi-cultural Studies

特定非営利活動法人

国際比較文化研究所

■ Newsletter ■

Vol. 11 No.4 2010年 11月

鷹の宮卓話

研究所長 太田敬雄

私がメンバーに名を連ねている団体の一つに WARD(World Association of Representatives for Descendants)「世界子孫代理人会」がある。元々、この会の発起人の一人であり私の高校時代の同級生だった玉川大学教授の松香光夫教授に誘われて参加し、何となく会費を払い続けてきた団体だ。

「世の中は、当面のことで動き、未来を食べてしまいがちです。子孫の生活を保障するために、子孫の視点で考え、行動する仲間を増やしましょう。」というユニークな視点で活躍している団体であり、国際比較文化研究所がどちらかと言うと文系的な視点で考えているのに対して、理系の立場から同じような活動をしている団体として親近感を覚えている。ほぼ二十年にわたって活躍している。

今年が国連「生物多様性年」(Biodiversity Year)であり、ごく最近名古屋で「生物多様性条約締結国会議」(COP10)が持たれていることに触れて松香氏は WARD の会報に次のように記している。

「約 30 億年かけて地球上で進化してきた多様な生物が、主に人間の活動のせいで、短期間に失われていくのを食い止めなければならないというものです。シンボルとしてのトキやパンダが、また、身近にいくらでもいたはずのスズメやメダカが、住めなくなってしまう状況は、とりもなおさず、私たち人間自身が住みにくい状態になっていることを意味しています。

生物の多様性と言うと、ピンと来にくい点があります。(確かに、遺伝子レベルから、種のレベル、生態系まで幅も広いのです)が、私自身は、日々の生活の中で感じる「色々な考え方がいるんだなぁ」という実感の延長で、多様性を考えています。そうでなくとも、新聞・テレビで話題になりやすい、上記の絶滅危ぐ種や、外来生物の影響などの問題から、人間と人間以外の生物との共生やバランス、それぞれの役割などを考えてみてください。」(WARD 36号 2010.10.20.発行。P.6)

IIMS が目指している「相互理解に基づいた、より豊かで平和な地球を創る」活動では人間世界における異なる文化の共生を考え、他方 WARD は人間と人間以外の生物の共生を考える。全く違う活動のようでいて双方が行きつく先は全く同じようにもみえる。人間社会における相互理解からの共生は決して人間社会の中で完結出来るものではなく、あらゆる生命体との共生にまで行きつかなくてはならない宿命にあると思う。「世界子孫代理人会」WARD と「国際比較文化研究所」IIMS、いずれの活動も人(一方は異なる文化を持つ人、他方は次世代の人)に思いを馳せつつ、結局は地球全体を一つの生命体として捉えるところにいきつくものではないだろうか。

少なくとも IIMS については、生命体としての地球に思いを馳せるところまで辿りつかないと、その理念も活動も人間の独りよがり・エゴを恰好良く飾るだけで終わってしまう危険性をはらんでいる。時に WARD の HP を見て我と我が身を引き締めたいと思う。

(<http://www.interq.or.jp/earth/ward/>)参照。

憧れの「タブンカ」 in Malang

マラン担当責任者 菅ヶ谷マコ（マラン在住）

インドネシアのマランで「多文化交流」がスタートしたのは、2007年。2011年2月実施予定の「多文化交流 in Malang」で4回目を迎えます。群馬県出身の熱血日本語教師荒井先生が、ブラウイジャヤ大学に赴任したのが2004年。その教え子たちが参加し、昨年からは、荒井先生を直接知らない学生世代も参加するようになりました。

マランでも、このプログラムは日本語のまま「多文化交流 in Malang」と呼ばれ、学生たちの間では通称「タブンカ」です。

試行錯誤でスタートした2007年。実はコーディネーターである私も不在でしたが、参加した方々には良い感想をいただきました。2008年からは、毎年、過去の参加者から6-7名スタッフを選び、半年前から準備しています。太田先生とメールで交信し、2週間に一度スタッフ会議を開き、アイデアを出し合います。日本語学科学生とのディスカッション、海水浴、農村訪問、高校訪問、パートナーとの自由行動など、盛りだくさんの内容です。場所の下見や見積もりから始め、宿泊、交通、食事の手配と進めていきます。今年はどんな「タブンカ」になるかと、毎回ワクワクしながらミーティングですが、日本からの参加者が少ないとガッカリです。前年度の経験を元に改善を加え、当日の進行表を作成していきます。目下の課題は「どうしたら病人が出ないか」ですが（今まで毎年出ています）、現在のところは、病人は出るものとして準備しています。「この日は7時にホテル集合。スタッフは4人、参加者の海水浴に同行。病人がいるかもしれないから2人はホテルで待機。○君はホームステイ家族との連絡役ね。」という具合にです。



オリエンテーションで語るマコ先生

一方で、日本からの参加者数が決定すると、彼らの滞在中のパートナーとなる「インドネシア人参加者」を募集します。「日本語能力試験3級以上」「すべての日程に支障なく参加できること」など、いくつか条件を掲げ、ブラウイジャヤ大学に貼り紙をします。通常、日本人参加者よりもかなり多い希望者が集まりますので、実は、参加者選抜のための面接を行っています。多文化交流に参加するために面接！？なんて、驚かれる方も多いでしょう。事実、この選抜が、私たちスタッフには悩みの種です。本当は、すべての希望者に参加して欲しいですし、日本語能力の試験ではないので何を指標に選んだら良いのか。結局のところ「第一印象」で選ばれていると言っても嘘ではありません。

そして「インドネシア人参加者」が決定すると、また何度かミーティングです。参加者には、自由に日本人と対話し、付き合ってもらおうようにしていますが、スタッフが、これまでの経験を彼らに話します。「日本人に、普段の生活そのままを紹介してあげてね」「あまり汚い屋台で食事しないようにね」「バイクの2人乗りは原則として禁止」など、アドバイスのほか、「日本人は平気で貴重品をテーブルに置きっぱなしにするから、自由行動中は注意して見てあげてね。」という、ハッとさせられる指摘もありました。このような準備期間を経て、毎年「多文化交流 in Malang」当日を迎えます。いざ始まるとハプニングの連続ですが、その都度なんとか対応し、次への経験としています。

「タブンカ」のなによりの魅力は「相互でつくりあげること」です。私もこれに惹かれ、お手伝いを始めました。訪れる者が一方的な関心を持って現地で行動するのではなく、迎える側と一緒に行動し、対話する。準備期間を含め、私たちマランのスタッフと参加者は、「つくりあげる」を実感しています。

現在、日本語学科の学生たちにとって、「タブンカ」は憧れの存在になっているようです。新入生からは「どうすればタブンカに参加できますか」と質問があります。日本人がマランまで来てくれて、学んだ日本語で話ができて、一緒に遊びに出かけられるなんて、夢のような機会だからです。

来年2月の「多文化交流 in Malang」では、マラン側で厳しい「参加者の選抜」をしなくて済むよう、ぜひ多くの皆様に参加していただけることを願っています。（今年のプログラム：3ページ参照）

第4回多文化交流inマラン 2011

昨年夏以来実施していなかった「多文化交流 in マラン」を 2011 年 2 月に実施します。

☆他の文化を生きる人々と心を通わせる交流の旅。一週間で終わるのではなく、生涯の友となるつながりの始まる充実の旅。

☆日本語を専攻する大学生との、日本語での交流を目的とした旅。

☆私たちが何よりも誇りとしていることは、この多文化交流が日本とインドネシアの双方の参加者にとって意味深いものとなるように企画されていることにあります。

☆問合せ・申込先 NPO 法人国際比較文化研究所

Fax : 027-382-6292、✉mtharunac@xp.wind.jp



第 3 回多文化交流 in マラン (2009 年)

○メールの場合、件名に必ず「多文化交流」と明記して下さい。

募集概要

日 時：2011年2月16日（水）成田前泊・17日（木）成田発～2月25日（金）

参加費：11万円（ビザ取得代<25ドル>・旅行保険・一部食費等別）為替レートの急激な変動の有った場合には多少増減せざるを得ない場合もあります。

募集人員：約20名（15名にて実施）申込順。定員になりましたら締め切ります。申込締切12月10日

参加資格：18歳以上の健康な方。国籍不問。使用言語：日本語 集合・解散：成田空港

企 画：NPO 法人国際比較文化研究所（太田敬雄） コーディネーター：菅ヶ谷マコ（マラン在住）

『多文化交流 in マラン 2011』申し込みについて：参加希望者は下記の内容を記して Fax もしくはメールにてお申し込み下さい。同時にパスポートのコピー（パスポート未取得の方は取得前に申し込んで下さい）、パスポート用写真（2枚）を添えてください。なお、申込金3万円のお振込み（12月10日まで）をもって正式な申し込みとさせていただきます。残金8万円は2011年1月10日までに振り込んでいただきます。振込先：郵便振替 加入者名 国際比較文化研究所 口座番号 00510-0-61974

参加申込については下記を Fax もしくはメールでお申し込み下さい。

氏名：（漢字）姓_____名_____ フリガナ：_____ローマ字表記：_____
性別 M・F 生年月日_____ パスポート番号_____ 有効期限_____
〒：_____ 住所_____
電話番号_____ メールアドレス_____

☆ なお、参加者が未成年の場合、保護者の同意の文書を添えて下さいますようお願いいたします：内容は「私儀 _____ 印 は、参加者名 _____ の保護者として上記子女の「多文化交流 in マラン 2011」への参加を承認します。」程度の簡単なもので結構です。

二面に菅ヶ谷マコさんが書いておられますが、一人でも多くのブラウイジャヤ大学で日本語を専攻する学生達にこの「タブンカ」に参加して貰うために、また一人でも多くの人が文化も宗教も異なる世界の人々と手をつないで生きていける平和な社会の実現に貢献できる人材となることが出来るよう、インドネシアと日本とで緊密な連携を取りながらプログラム作りをしています。この事自体、意外にも希なプログラムの作り方です。日本から海外に行くプログラムは日本側の目的に沿って相手国の人々に動いて貰うものが多すぎます。双方に対等なメリットのあるプログラム作りが IIMS の誇りです。

決して安い参加費では有りませんが、他の文化を心から尊重する事の出来る人になる、またとない体験と交流が出来るプログラムです。皆様の参加をお待ちしております。

最後の時間



加瀬谷恵 1981 静岡生まれ。
早稲田大学第二文学部卒。学生時代、
野沢尚の脚本を研究、日本放送芸術
学会で発表。日本比較文化学会会員

彼女とはそれっきりだ。連絡先も知らない会社での付き合いに過ぎなかった。しかし、あの日の彼女の笑顔や言葉が頭の中に浮かぶと、「そんなことで悩まないの。」と言われていたような気がして、仕事になんとか向き合えるのである。

ユキさんとは会社のランチ友達だった。ユキさんから色々な話を聞いたが、特に海外での夫婦生活の話が忘れられない。「息子は夫に虐待を受けていたんだよ。」壮絶な過去を語る彼女の顔は健気で美しく、自分の悩みがひどく贅沢なガラクターのように思えた。

ユキさんの退社については、その日の朝に知った。息子の病気が発覚し、彼女は急な退社を決めた。息子の病気が発覚し、彼女は急な退社を決めた。息子の病気が発覚し、彼女は急な退社を決めた。息子の病気が発覚し、彼女は急な退社を決めた。

「ごめんね。何もできなくて。」それは病気の息子にかけた言葉だったのだろうか。気丈に振舞っていた彼女の瞳から大粒の涙がこぼれた。息子を守るために日本に帰ってきたのに、次は息子の病氣と闘わなければならぬのか。ユキさんはぐっと両手を握り締めて体の震えを抑えていた。私はユキさんを前にしてかける言葉が全く見つからなかった。「がんばるからね。」彼女は一苦勞してそう言うと、私たちは最後の時間を惜しむように、ただ何も言わず涙を流した。「泣かないの。」彼女はポロポロの笑顔を作り、残り少ない仕事の時間に向けての顔に戻っていった。

「多文化交流 in 釜山 2010 夏」回想

2010年10月19日
荒井美里

先日、スーパーでキムチを買いました。多文化交流に行く前と行った後ではキムチへの思い入れがまるで違います。釜山でみんなと味わったあの辛さが恋しくて、もちろん全く同じ味というわけではないですが、つい手が伸びてしまいます。

暑かった夏の熱かった多文化交流から気づくともう二か月。振り返ってみると、終始驚きっぱなしだったような気がしています。まさにカルチャーショックです。第一のショックは、意外にも多文化交流と一緒に参加した日本人学生です。群馬の田舎の小さな大学に通う私にとって、他大学の学生に会うことはそれだけで自分の世界が広がったような気分になります。私は初対面の人と接すると、いつも自分でないようなかんじのまましゃべってしまいます。新しい出会いは、そういうぎこちなさを乗り越えてでも得たいと思えるほど、わくわくするものなのだと改めて感じました。活気ある街で人波にのまれ、夜景を眺めながら海岸を歩いたことも、普段は絶対できないことなので楽しい以前にかなりの違和感でした。そして何よりのショックは韓国人学生たちのエネルギーな人柄です。本当にいい意味でのショックでした。みんなで歩いて、飲んで、食べて、はしゃいで、食べて、飲んで、飲んで・・・の時間は本当に特別でした。あの盛り上がりゲームでの「一体感」は忘れられません。

しかし、少し前まで濃密だった記憶が正直なところ、最近薄れつつあります。1週間の思い出だけで完結させるのか、出会えた人たちやそこで触れた韓国の文化とのつながりを何年先までも



荒井さん（前列、右から二人目）と仲間たち

ずっと大切にしていけるのか、太田先生の言葉を借りれば「これからが勝負」だと最近実感しています。最高の1週間でしたが、本当に友だちになるには全然足りないと思います。日常生活に追われすぎると、タイミングが合わない、きっかけがない、時間がないなど、些細なことを大事なつながりよりも優先してしまいそうになります。日本も韓国も何かとせかせかしがちですが、人とのつながりを続かせるにはゆったり構えるのが必要だと思います。また会う日を楽しみに頑張ろうと、キムチを食べながら思いました。

留学生との多文化交流inぐんま

「折角日本に留学に来たのだから、心を割って付き合える日本人の友達が欲しい！」と思っている留学生と「大学に来ている留学生と親しくなりたい！」と考えている日本人学生に日本語で交流できる友だち作りの三泊四日のプログラムを立ち上げています。すでに留学生からは20名程の参加申込があり、留学生の募集は締め切りしました。20名の学生が群馬はもちろん、山形から、茨城から、あるいは東京から集まっています。出身は韓国、中国、台湾、ベトナム、タイ、インドネシア、ミャンマー等からの学生です。この留学生募集には数年前に研究所で招聘し、今度は文部科学省の招聘留学生として山形大学で学んでいるウィラスティさんが大活躍してくれました。

現在、参加出来る日本人を募集しています。以下の要領で参加申込をお願いします。なお、日本人のホームステイは遠方からの学生の場合の一部を除いて太田家での{雑魚寝ホームステイ}となります。県内の学生の場合一度帰宅して28日にもう一度参加して貰う事も可能です。

現在、留学生のホームステイ先を求めています。ぜひご協力の程お願いしつつご連絡をお待ちしています。(屋内で犬を飼っておられる方はその旨お知らせください。)また移動のための車を出して下さる方、そして参加者の食事のための食材もしくは食費をご寄贈下さる方も合わせて求めています。

日 程

12月25日(土)	午後 高崎駅集合 安中市「学習の森」に移動・ オリエンテーション 温泉体験 恵みの湯	夕食・宿泊：学習の森
12月26日(日)	10:30～「まなぼる」の子供たちに 各国の遊びを指導する 午後：懇談会・懇親会	朝食：学習の森 昼食：市内レストラン(各自負担) 夕食：学習の森
12月27日(月)	午前：もちつき～臼と杵で本格的な餅つき 午後：ホームステイ	朝食：学習の森 チェックアウト 昼食：もち 夕食：ステイ先
12月28日(火)	午後4時、高崎駅集合 お別れのお茶 解散 午後5時	朝食・昼食：ステイ先

主催：NPO 法人国際比較文化研究所（責任者：太田敬雄）

連絡先：379-0124 安中市鷲宮3413-3 Fax：027-382-6393 メール：mtharunac@xp.wind.jp

後援：安中市・エフエム群馬・安中市教育委員会・上毛新聞（予定）

参加費：一人3,000円

参加申し込み：参加希望の方は次の事項を記入してメールかファックス、

郵送で申し込んで下さい。

氏名： フリガナ： 年齢： 性別： 国籍： 宗教： 所属大学：

郵便番号： 住所： 電話番号： メールアドレス： 申込締切：12月10日（締め切り前でも定員になり次第締め切らせていただきます。）

「お話のストリート・ライブ」

前橋市市民活動支援センター登録団体の活動紹介パネル展に10月18日から31日までの二週間参加。何人もの方々に国際比較文化研究所を知っていただくことができました。このパネル展に合わせて所長の講演会も実施。館内の通りがかりの方々にもちょっと足を止めて聞いていただけるように「お話のストリート・ライブ」と銘打って10月23日に実施しました。テーマは「春樹と真知子のすれ違い」

詳細は Pepo のブログをご覧ください。

<http://www.pepo-c.com/2010/10/blog-post.25html>



聴衆のお一人に協力を願ってライブは続く

Manapai まなぱる

発展途中：マナパルも私も

「まなぱる」講師

日向野順子（ひがの・じゅんこ）

17歳で初めてパスポートを手にし、2年間アメリカに留学しました。日本にいた時は、幼少期に英語カルタで遊び、小学生で英語スクールに通い、中学時代にはFENやNHKラジオ放送など聞き、英語に触れる時間は多々あり発音も良いと言われていたのに、アメリカでは全く会話ができず全てにカルチャーショックを受け、自分の小ささを実感せざるを得ない体験をしました。

数年前、某英会話教室で初めて英会話講師の職に就きました。英会話教室と言っても内容は多様。自分が考えていた内容とはだいぶ違いました。そうした時、講師として自分に合った職場をと考え「まなぱる」を選択しました。「まなぱる」は子供たちの笑顔でいっぱいです。10月のハロウィンパーティーでは80人を超える子供たちが参加し、大イベントとなりました。ボランティアの学生達の力を借り、大変な準備をも楽しみながらできるパワーの裏には子供たちの笑顔が欠かせません。

子供たちが「楽しい」と感じるのはどんな時だろうと考えると、友達と一緒にの楽しさや何かができる時に感じる楽しさなど、色々です。また、与えられる楽しさだけでなく、自らがどんな場面でも楽しもうとする前向きな姿勢を持つことも大切です。沢山の子供たちを見ていて、改めて個性というものを感じます。それぞれの個性がどんな刺激を受けてどう変化し、それをどうプラスに変えていけるか…英語を教えるという仕事を通して、今ようやくその姿が見えていたように思います。私自身もまだまだ発展途中ですが、成長する子供たちの「刺激」の一つとなれるよう、まなぱるで発展し続けたいと思います。



まなぱるハロウィン仮装パーティーの様子（低学年の部）。左端が、ハロウィンパーティーを「海賊ファッション」と「楽しいレッスン」で大いに盛り上げたJun先生（日向野さん）。小柄な体から、子どもたちを魅了するパワフルなレッスンを常時展開する！

◇ ◇ ◇ 現在の主たる活動は、以下の通りです♪ ◇ ◇ ◇

ご質問・ご意見等、お気軽にご連絡下さい。

連絡先：027-386-8499（まなぱる） 080-6612-9636（太田琢雄携帯）

〇〇〇 こども英会話くらぶ 〇〇〇

① 未就学児（3歳～6歳程度）

1回45分、月4回 月謝3,000円

② 小学低学年向け（1～3年生）

1回50分、月4回 月謝3,000円

〇〇〇個別指導 英語教室〇〇〇

中学生・高校生・社会人対象

>中高生対象の個別指導 >プライベートレッスン

>ネイティブレッスン

〇〇〇大人の英会話カフェ〇〇〇

お茶と英会話で団欒タイム♪

〇〇〇小学校 高学年向け英語クラス〇〇〇

>小学高学年（4～6年） ー小人数クラスー

1回50分、月4回 月謝4,000円

〇〇〇スタディ・ホール〇〇〇

>小・中学生の勉強部屋。

算数・数学も教えています。

〇〇〇まなぱる相談室〇〇〇

>子どもたち自身のための、

そして彼らに関する悩みの相談室。

『皆様へのお願い』

マナパルの活動をご理解頂き、ご支援・ご協力頂いている会員の皆様・地域の皆様に心より感謝申し上げます。ありがとうございます！規模拡大に際し、今後もご寄付その他の援助は、運営上はもちろん、本当に本当に大きな心の支えとなります。皆様の温かいご理解・ご支援・ご協力に心から感謝致します。子どもたちの成長への希望と、この活動への期待にお応えできますよう、弛まず邁進していく所存です！

（他事業へのご寄付同様、決してご寄付を強要するものではありません。ご了承下さい！）

太田敬雄の「心にひびく異文化概論」

予定の一カ月遅れで、2011年2月から異文化概論を月一回のペースで開催します。

太田敬雄のワガママ講座ですが、「日本は本当に国際化社会になったのか」を問いつつ、異なる文化を背景として持つ人々の文化・価値観を学び、人々が共に生きていく時代を考えてみたいと思っています。

「大学でしか聞けなかったあんな話、こんな話」を楽しくお茶の間に届けたいと思っています。

☆心にひびく異文化概論 in 安中

◆◆来年2月から毎月1回・第2土曜日（変更の可能性あり）に実施決定！◆◆

■時間 午後2時から3時半 お茶、珈琲でも飲みながら。2011年2月12日開講

■参加費 講義1回につき1000円。大学生は500円。高校生以下は無料。当日会場にてその回の参加費を徴収させていただきます。たった1回だけの参加でも、もちろん大歓迎です。12回程度の実施を考えていますが、これは様子を見ながら決定します。ただし：

3回連続で出席した場合は4回目は無料！・・・目指せ、全クラス受講！

■場所「まなべるXD」…379-0116 安中市安中2456-2（旧『珈琲賛歌』）※安中市国道18号線バイパス沿い、ヤマダ電機の向い。高崎方面からこられますと右側、カラオケ「まねきねこ」の手前の大きな看板が出ています。広い駐車場の奥にある洒落た洋風の二階建てが「まなべるXD」です。



■講師 太田敬雄。現在「異文化概論」の構想を夢見つつこのページを作成中。

■講師経歴 1942年生まれ。現在安中市在住。アメリカ留学後アメリカの公立高校数学教師から始まり、日本の私立の高校、国立・私立の大学・短期大学で主に英語と比較文化を担当してきた。「教えるのではなく、学ばせる」をモットーに、44年の教員生活。現在も3大学で非常勤講師を勤める。日本比較文化学会名誉会長。元日本放送芸術学会会長。今年度より安中市男女共同参画委員会委員長。フルブライト上級研究員（1981-2）。

■参加ご希望の方はあらかじめご連絡頂ければ幸いです。Fax：027-382-6393
メール：totatakao@yahoo.co.jp（葉書も可）お名前、フリガナ、ご住所、メールアドレス、性別と年齢をお知らせください。後日、詳細をご連絡致します。

☆心にひびく異文化概論 in 前橋 現在準備中！

◆◆毎月1回、第3土曜日（変更の可能性あり）2011年4月から開講予定で準備を進めています◆◆

■時間 午後2時から3時半 お茶・コーヒーを飲みながら落ち着いた雰囲気の中で共に学ぶ

■参加費 講義一回につき1000円。別にドリンク代（各自負担）大学生以下はドリンク代のみ。

■場所 前橋市朝日町 日本赤十字病院前「茜屋珈琲店」で検討中。駐車場有。0272-21-8899

☆会費納入とご寄付のお願い☆

大勢の皆様のご協力によって今年度も研究所らしい活動を続け、少しずつではありますが発展していております。有難うございます。「相互理解に基づいた、より豊かで平和な地球を創るために」これからも一步一步、試行錯誤しながらも進んで参りたいと決意を新たにさせられた11年目もあとわずかになりました。

多くの会の活動に参加出来ない会員にとっては、ニューズレター発行を除けば、会費は会の活動を支える寄付の様相を呈しています。それにもかかわらず大勢の会員に支え続けていただいていることに心から感謝しております。これからも変わらず研究所の活動をお支え下さい。

年会費は個人が2000円です。研究所の活動のためにご協力をお願いします。今年度の会費未納の方にはその旨を記した振込用紙を、すでにお振り込み下さった方にはご寄付下さる方のために振込用紙を同封させていただきますが、決してご寄付を強要するものではありません。

マナバルの活動も、10月からいよいよ「まなべるXD」を発足させました。昨年10月からスタートした「まなべる」は、参加者からは大いに喜ばれていますが、本当の「勝負」は二年目ではないかと思えます。

インドネシア人学生招聘事業「多文化交流 in 関東」も継続します。このプログラムの実施は全面

的に皆様のご寄付に依存しております。日本語を積極的に学び、日本訪問を夢としてはいても、私費での来日は難しいインドネシアの若者達のために今年度も宜しく申し上げます。

次に5ページに記しましたように今年の暮れ、12月25日から三泊四日で「留学生のための多文化交流 in ぐんま」を実施します。現時点ですでに山形や東京から20名の留学生の参加申し込みが届いています。

◇会員倍增計画◇ 新しい会員をお誘いください。入会に条件はありません。国際比較文化研究所の活動に賛同し、年会費（2000円）をお支払いくださる方は、どなたでも大歓迎です。これからの世界平和実現を願いつつ多様な教育・文化活動をつづける研究所を理解していただき、支えて下さる方の一人でも多くがご参加くださるよう願っています。

会費・寄付(2010. 9. 16. ~2010. 11. 25.)

<敬称略>

<入会>伊藤忍、加瀬谷恵

<会費>（注：特にカッコ記載のない場合は2010年度分です。）皆様の変わりないサポートのおかげを持ちまして活動を徐々に広げていく事が出来ております。有難うございます。

野口周一、太田玲子、伊藤忍、工藤早恵、加瀬谷恵、小林久子、水木健一、藤田隆、千木良恵子。

<「インドネシアより招聘」「多文化交流 in 関東」指定寄付>御協力有難うございます。今年度も是非インドネシアからの招聘プログラムは継続して参ります。次回の「多文化交流 in 関東」（名称を変更して実施しました）にこれまでも劣らぬご協力をお願いします。工藤早恵、太田玲子、小山直美。

<マナパル 指定寄付>マナパルがさらなる飛躍を準備しておりますなか、心強いお支えに感謝します。教育活動の支えとして有効に活用させていただきます。太田玲子、匿名。

<一般寄付>匿名。

有難うございます。必要とされる所も多くなってきました。有効に使わせて頂きます。

編集後記： ◇今年度はこの号で4回目のニューズレター発行となった。ずっと二ヶ月に一回程度は発行したいと思いつつも、年によっては一回発行することが精いっぱいだったことを思うと、隔世の感がある。内容的にも随分と豊かなものになっているのではないだろうか。

◇新しい試みとして「加瀬谷恵のショート・超ショート」を掲載した。15文字の芸術が有るのだから、600字のフィクションが有っても良いのではないだろうか…との思いで依頼している。これから何が出来ていくのか、もしかしたら将来の文学賞作家のデビュー作品として注目される日が来るかもしれない。などと私は無責任に楽しんでいる。もっとも、書かされる加瀬谷さんは大変な思いをされることだろう。

短歌や俳句、詩の掲載はどこでもやっているがここまで短いフィクションは先ずないだろう。大体「ショート・超ショート」などというジャンルさえ存在しない。私はそこに限りない可能性を見ている。

◇この号のニューズレターには原稿が間に合わなかったが、12月23日にはマナパルのクリスマスが安中市文化センターの大ホールで開催される。

子ども達の英語の歌の発表などが予定されているらしい。会員の皆様にもぜひその成果を見に来て頂きたい。明るく楽しい集いとなることを願いつつ。

◇一度印刷したニューズレターが、気付いて見れば校正の入る前のものだったばかりでなく、会費・寄付の内容に先号のものがそのまま残っていた。慌てて作成し直し印刷をし直すこととなった。歳と共にこういうミスが多くなっていくようだ。用心しなくてはと気を引き締めている。

◇皆様の2010年が良い一年であった事を願います。また、来年がさらに良い年となりますように祈っております。(T)

Newsletter 発行：特定非営利活動法人国際比較文化研究所

事務所：〒379-0124 群馬県安中市鷲宮3413-3

電話：027-382-5998 FAX：027-382-6393

e-mail：mtharunac@xp.wind.jp

HP：<http://www8.wind.ne.jp/mthac>

郵便振込口座番号：00510-0-61974 名称：国際比較文化研究所